

監事監査報告書

2020 年度第 1 回監事監査結果につきまして次のとおり報告いたします。

監 事

藤 山 勝 光



監 事

曾 場 利 夫



監査日時 令和 2 年 6 月 8 日(月曜日) 13:30～17:30

監査場所 法人研修センター

監査監事 藤山 勝光
曾場 利夫

監査内容 I 2019 年度第 4・四半期の法人の事業運営状況
II 2019 年度第 4・四半期年度の各施設・事業所の事業運営状況
III 2019 年度第 4・四半期の予算執行及び財務状況について
IV 2019 年度事業報告及び附属明細書等の監査
V 2019 年度決算に係る計算書類及び附属明細書等の監査
VI 2019 年度末における財産目録の監査
VII 預り金管理サービスの監査
VIII その他

同席職員等 阪口理事長 臼屋和光学園施設長 板岡銀山学園施設長
金子大江学園総務部長 加藤銀山学園総務部長
新田和光学園総務部長 永井法人事務局次長
瀬野法人本部事務局長

監査報告

私たち監事は、2020年1月1日から3月31日までの2019年度第4・四半期の法人及び各施設の事業運営状況、並びに法人全体の予算の執行状況、預かり金の管理状況、さらに、2019年度の事業報告書、決算関係計算書類、財産目録について監査を行いました。その方法及び結果について、次のとおり報告します。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、2020年5月27日付をもって理事長より2019年度の事業報告書及びその附属明細書、計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の提出を受け、同年6月8日までの間、法人事務局及び各総務部長に対して必要に応じて説明を求めました。

また、預かり金管理の監査においては、6月8日に利用者の預金通帳及び出納帳等について閲覧し照合しました。

以上の方法に基づき、2019年度第4・四半期における法人事業の経営・運営状況並びに2019年度の事業報告書、決算関係計算書類及び財産目録について検討しました。

2. 監査意見

■2019年度第4・四半期は理事会が4回開催されております。銀山学園の放射線防護対策事業に係る計画変更と工事施工に向けた入札執行や施設長を兼務する理事の退任に伴う新たな施設長の選任並びに理事の選任等を中心にして多岐にわたる議案が審議されております。

特に3月には3回の理事会開催となっており、理事各位においてはその責務を十全に果たされていると評価するものです。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、第2回臨時評議員会は決議が省略されました。施設長並びに理事の退任と新たな選任について書面によって評議員全員の同意が得られており、理事会が提案した議案を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされます。その意思表示に係る書面も事務局に保存されており、手続きを適正に行ったことを確認しています。

今般の感染症の発生にともなう理事会並びに評議員会の開催の柔軟的対応については、令和2年3月9日付にて厚生労働省社会・援護局福祉基盤課より事務連絡「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う社会福祉法人の運営に関する取扱いについて」が発出されていることを法人事務局に確認しております。

■法人役員並びに職員の研修についても感染症拡大の影響により研修の受講が難しい状況となっています。その中でも2月1日には法人の幹部職員研修が開催され第三者評価について外部講師を招聘して37名が研修しており

ます。第三者評価の実施については和光学園・陽だまり・えんれいそうが2020年度の受審を予定されています。個々の職員による自己評価も順次行われているとの報告を受けています。

■法人の企画調整会議や運営会議においては、1月下旬より新型コロナウイルス感染拡大防止対応策が検討されています。施設や事業所における感染防止対策が統一的にとられていることを確認しました。1月29日付で理事長と総合施設長連名で「新型コロナウイルス感染症に係る対応について」が法人内施設・事業所の長宛に発出されています。その後も施設利用者の毎日の定時検温や体調の確認が継続されているとの報告を受けております。

法人として利用者・職員の外出の自粛等感染防止について引き続き協力をお願いしているとのことです。外食を伴わない買い物やドライブなどの実施により利用者のストレスの解消と生活上の心の潤いを得るように努めているとの報告も受けました。

しかし、各施設の学園祭が検討の結果、今年度は取り止めの予定にあるとの報告がありました。施設・事業所の運営に非常に大きな影響が及んでいますが、引き続き感染防止に役職員一丸となって取り組まれるようお願いいたします。

■利用者の事故の発生状況の報告においては服薬する薬の渡し忘れや落薬等の割合が高いとの報告を受けました。服薬介助の場面では落ち着いた環境の中で十分に注意をもって行われることが求められます。

■2019年度第4・四半期(3月末)の資金収支状況について確認しました。事業活動収支においては活動収入が予算比101.24%、活動支出は98.92%だった結果、事業活動収支差額は予算に対して約4,505万円増加の1億3,257万円となりました。

施設整備等による収支差額が▲2億5,344万円余りとなっています。新たな就労支援施設整備の資金計画として1億2,500万円の市中借入を予定しておりました。しかし、借入の実行が2020年4月末となったため2019年度の施設整備収支に計上することができなかったとのことです。そのため当該借入は2020年度の資金収支に計上されることになります。この結果、その他の活動収支差額の3,743万円を加え2019年度の繰越額は▲8,344万円となりました。工事請負業者との契約が補助金の入金後の一括払となっていたために借入の実行が年度を越えたとのことです。補助金事業の実施における予算計画と執行について今後は慎重に対応されるよう要望します。

その他の活動収支では、大江学園並びにウエルサポート和光・ウイリング和光の修繕に備えた修繕積立資産としての1,730万円を含めて2,330万円が積み立てられています。

■新たな就労支援施設建設に係る補助金の入金が2020年4月末となったことから、約1億1,317万円の補助金は貸借対照表の未収補助金に計上処理されていることを確認しました。

■事業活動収支(損益計算)では、事業損失の▲334万円と事業外利益の3,203万円を合わせた経常収支がプラス2,868万円となり、特別増減差額約▲76万円を加えた当期の利益は約2,791万円と1年振りの黒字決算になりました。これは、障害福祉サービス等事業収益が前年度比プラス約5,318万円となったことが大きく寄与しているものと考えられます。

■利用者の預かり金管理は適正に執行されていることを確認しました。

■その他、法人組織及び事業の管理運営状況において諸規則に違反する事実は認められませんでした。

■決算監査の結果と意見は決算監査に関する監査報告のとおりです。